

# 針刺し損傷に関する施設の 体制の変化

**JESWG2009** (エピネット日本版サーベイランスワーキンググループ2009)

木戸内清 (名古屋市南保健所、所長)

黒須一見 (荏原病院、感染管理認定看護師)

満田年宏 (公立大学法人横浜市立大学附属病院 感染制御部・部長・准教授)

森澤雄司 (自治医科大学医学部附属病院 感染制御部、医師)

吉川 徹 (財団法人労働科学研究所国際協力センター、医師)

李 宗子 (神戸大学医学部附属病院、感染管理認定看護師)

## JESWG助言者

小池和彦、大久保 憲、遠藤和郎、柴田清、高松純、松田和久、他  
(職業感染制御研究会幹事)

**アンケート調査期間：2009年7月～9月**

**配布施設数：354（エイズ拠点病院）**

**回収施設数：112（回収率：31.6%）**

\* エピシスデータ以外で針刺しの情報収集している施設も含む

**< 回答施設の概要 > 2004年度～2008年度**

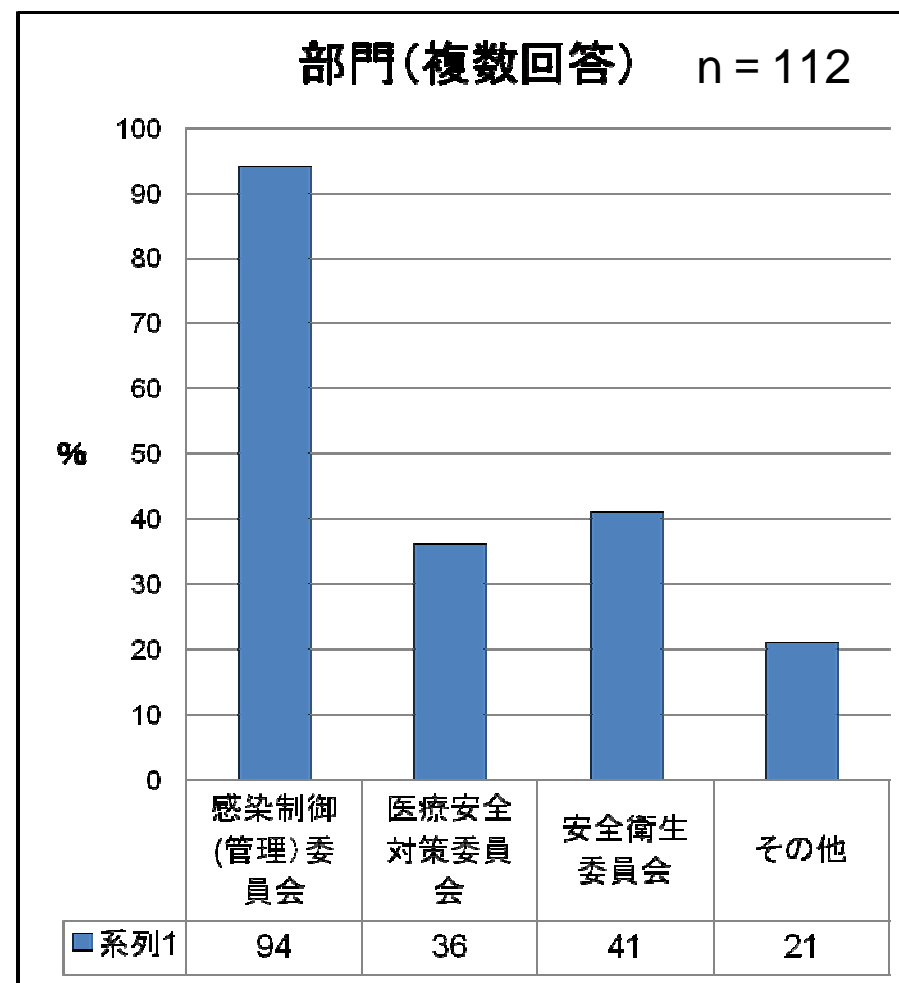
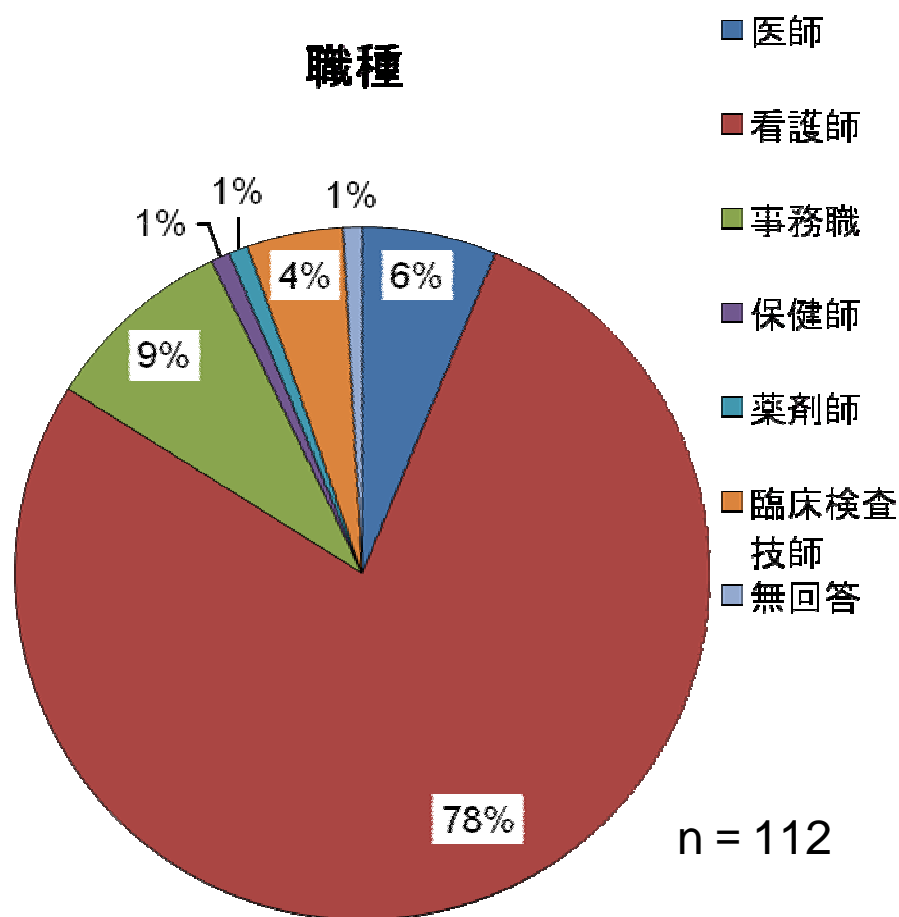
・ **病床数：180～1210床**

・ **平均ベッド稼働率：83～87%**

・ **7:1看護体制導入率**

**2005年度～2008年度 3～57%**

# 1. 針刺し損傷を取り扱っている職種・部門

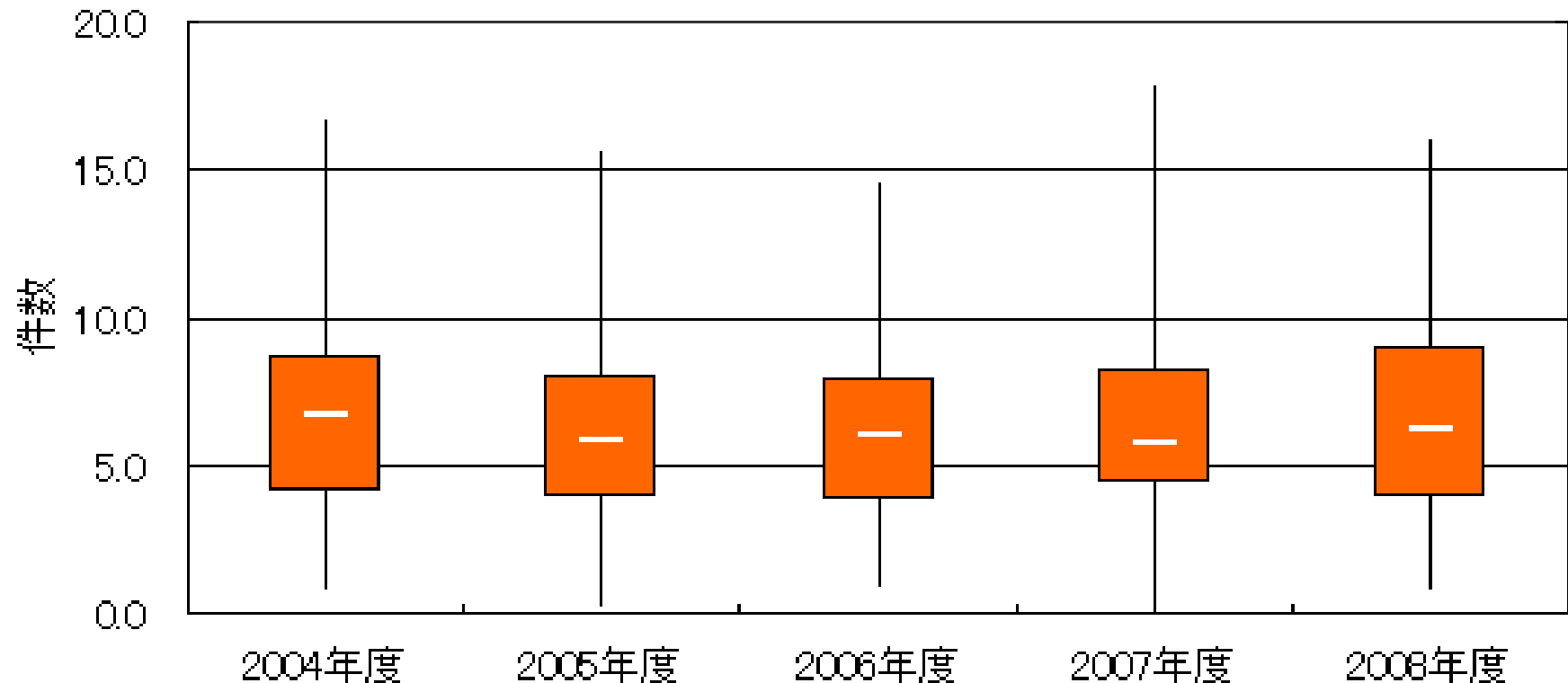


## 2. 針刺し報告・入力方法

	報告方法	施設数	入力方法	施設数
用紙 記入 報告	E P I Net日本版A用紙	82 (73.2%) * 2003年度 75.1%	Episysに入力	73 (65.1%) * 2003年度 46.7%
	E P I Net日本版Aに準じた病院 アレンジ版報告用紙	8		
	病院オリジナル針刺し報告用紙	16	Episysに準じた 病院アレンジ版 システムに入力	5
オン ライン 入力 報告	E P I Net (エピネット)日本版Aに 準じた病院システム	1	病院オリジナル システムに入力	15
	病院オリジナル針刺し報告項目 に直接入力	1	その他	14
	その他	2	無回答	5
	無回答	2		

# 3 . 100稼動病床数あたりの針刺し件数

## 2004～2008年度:平均6.3件



	2004年度	2005年度	2006年度	2007年度	2008年度
最大値	16.6	15.6	14.6	17.8	16.0
最小値	0.7	0.2	0.8	0.0	0.8
中央値	6.7	5.9	6.0	5.8	6.3
平均値	6.9	6.1	5.9	6.3	6.5

# 4. 看護体制7:1導入による比較

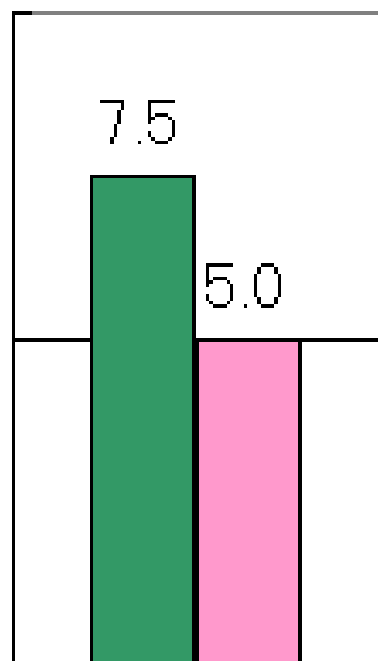
## 100稼動病床数あたりの針刺し件数から

件数

10.0

5.0

0.0



2008年度

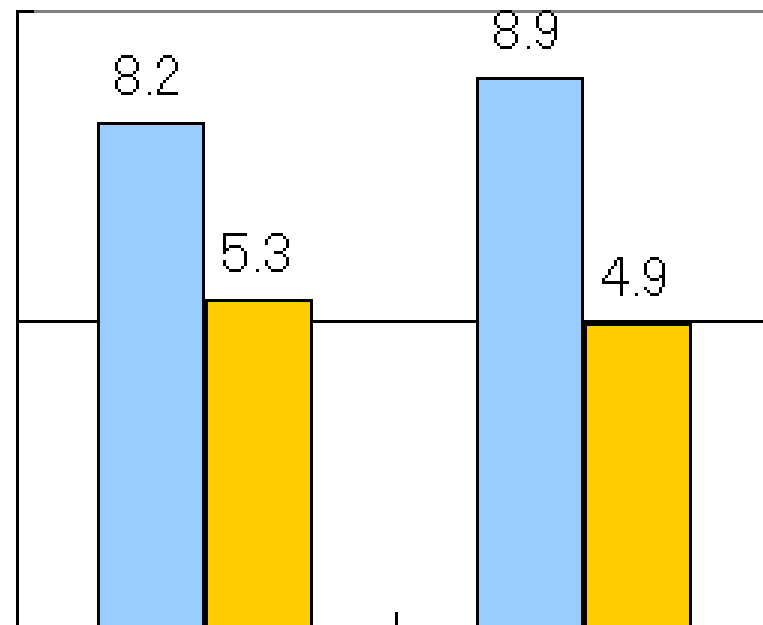
■ 導入 ■ 非導入

件数

10.0

5.0

0.0

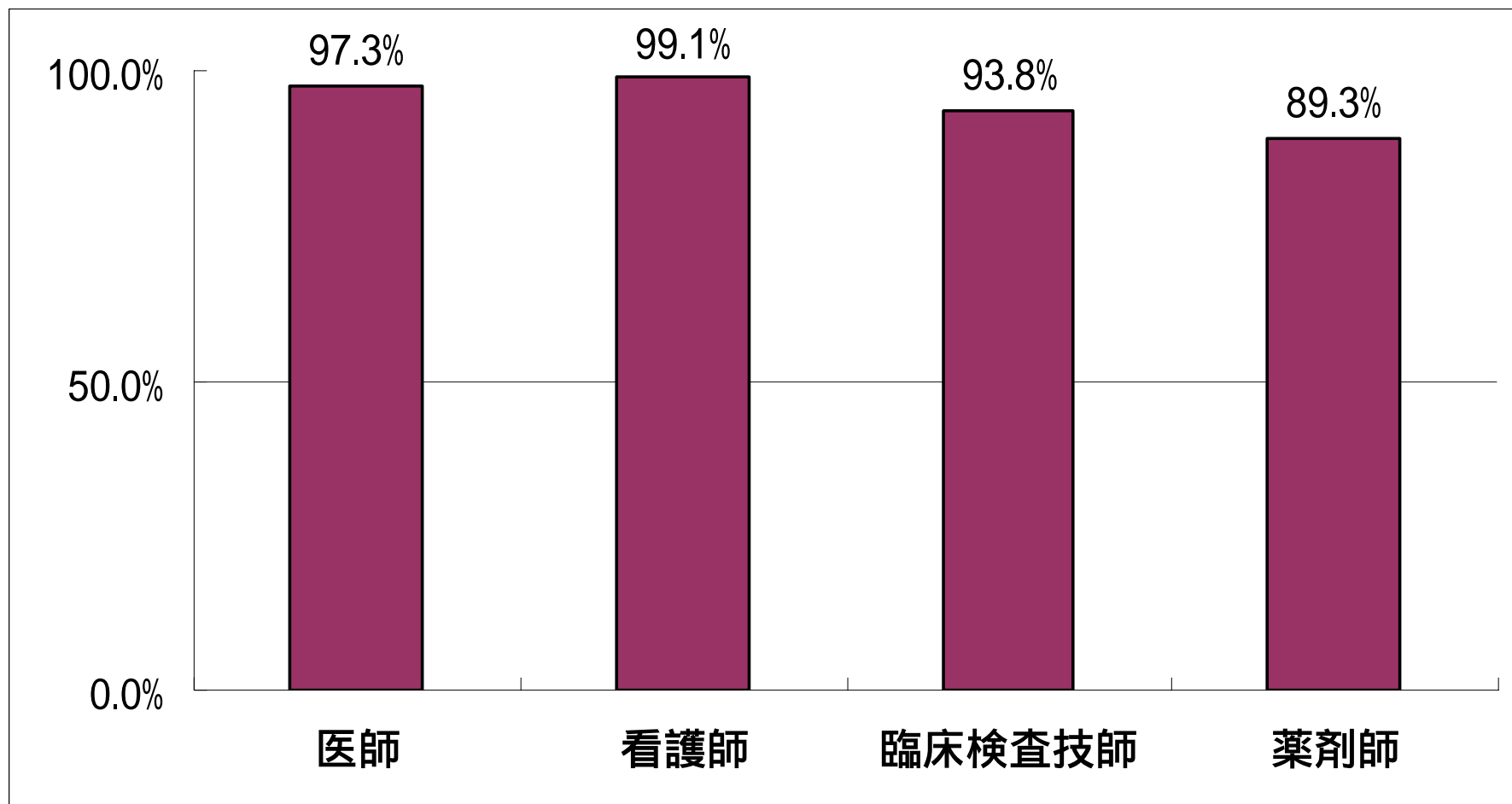


2003年度

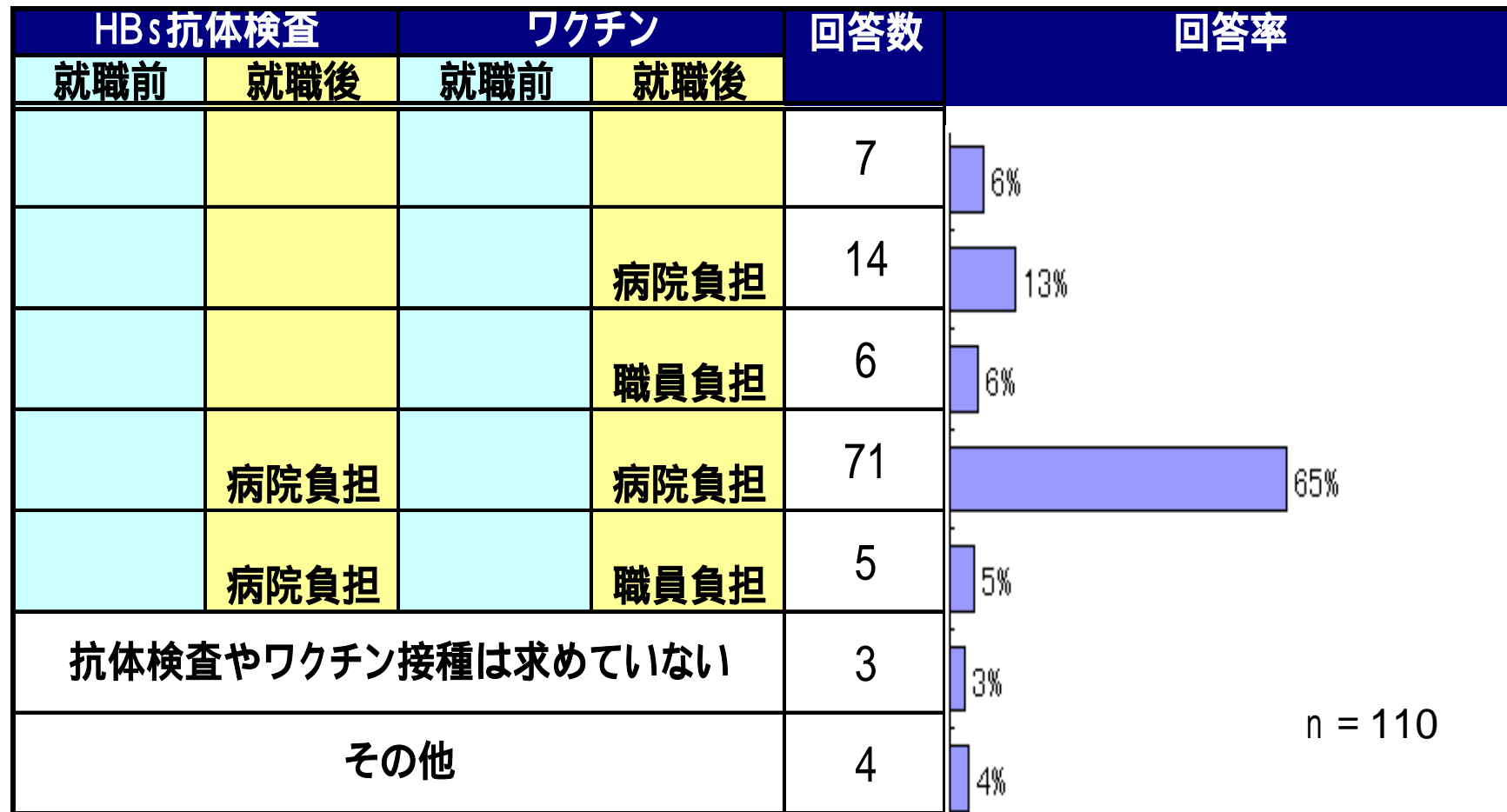
2008年度

■ 大学病院 ■ 大学病院以外

## 5. 新規採用職員における HBs抗体検査・ワクチン接種の対象職種 (代表的4職種)の実施割合



# 6. 新規採用職員に対する HBs抗体検査・ワクチン接種状況



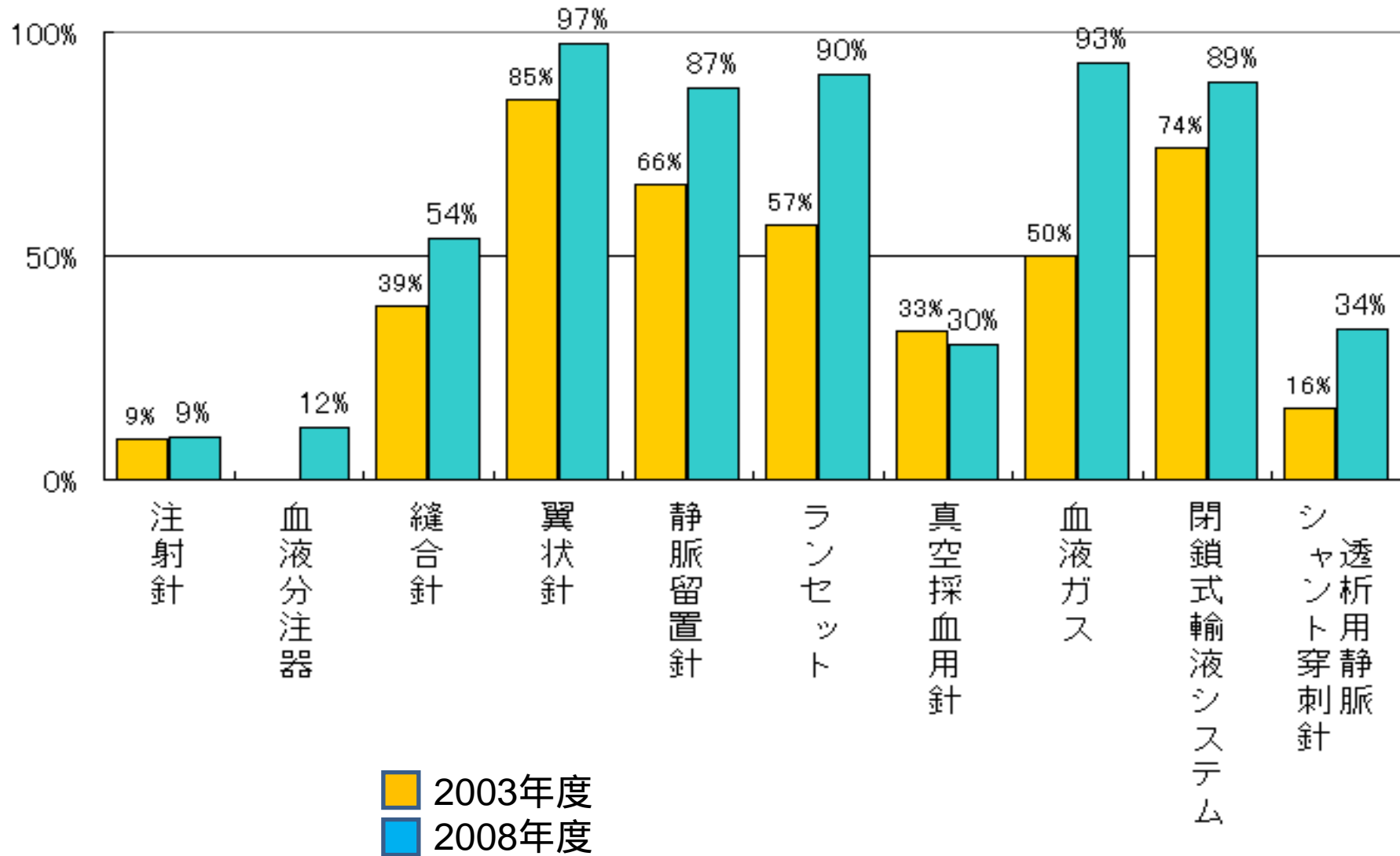


## 7. B型肝炎ワクチンの追加接種対応<sub>n = 112</sub>

回 答	施設数	%
1シリーズのワクチン接種後、1か月後に抗体検査。 陰性の場合、再度1シリーズ <b>職員負担</b> でワクチン接種。	9	8
1シリーズのワクチン接種後、1か月後に抗体検査。 陰性の場合、再度1シリーズ <b>病院負担</b> でワクチン接種。	38	34
1シリーズのワクチン接種後、1か月後に抗体検査。 陰性の場合、 <u>上記以外の方法</u> をとっている。	17	15
1シリーズのワクチン接種後、1か月後に抗体検査。 陰性の場合でも特に取り決めをしていない。	9	8
その他	39	35

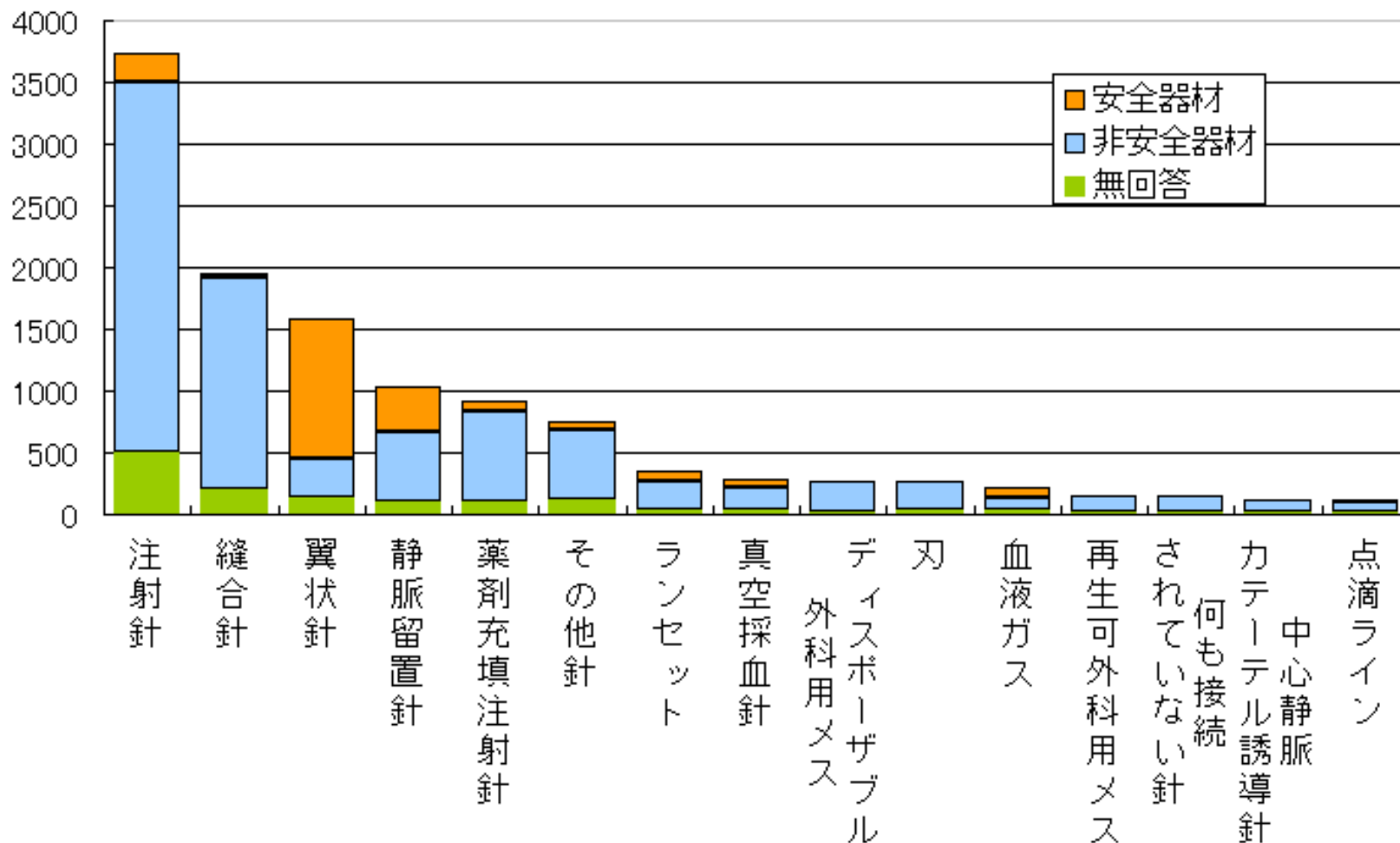
注) 1シリーズ = 0, 1, 6 か月で接種すること

# 8. 安全器材導入状況



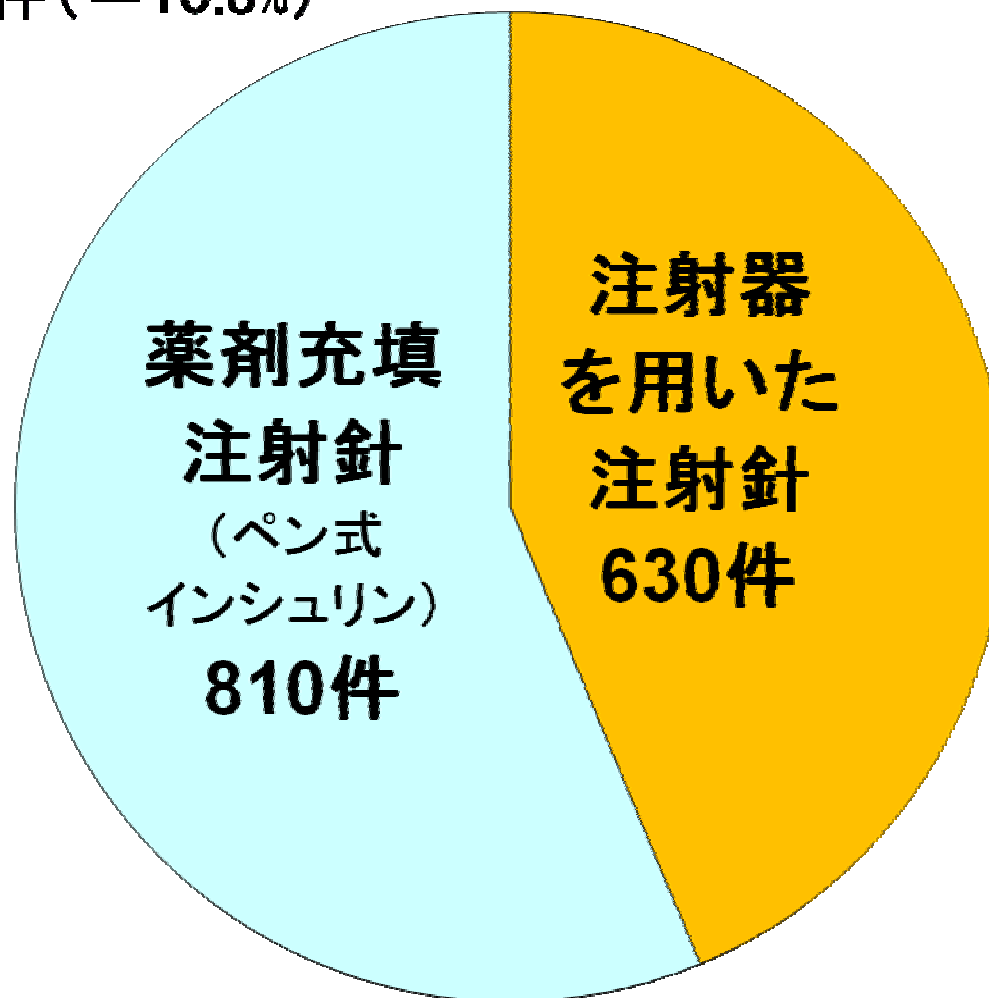
# 9. 針刺し原因器材 (TOP15)

JES2009 (2004年4月 ~ 2009年3月 ; n=13,329)



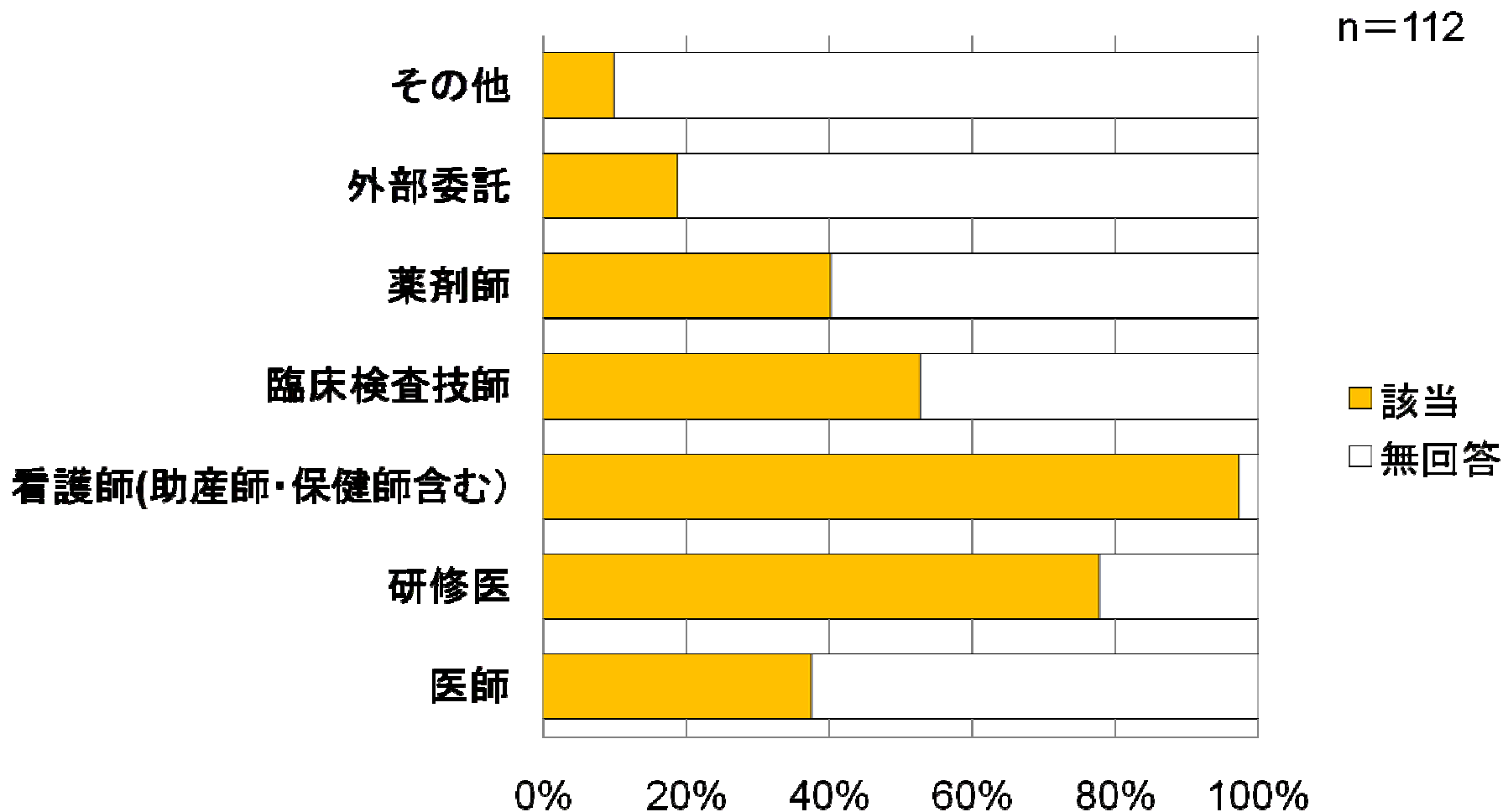
# 10. インシュリン注射時の針刺し原因器材 JES2009 (2004年4月～2009年3月)

1440件 / 13329件 (=10.8%)



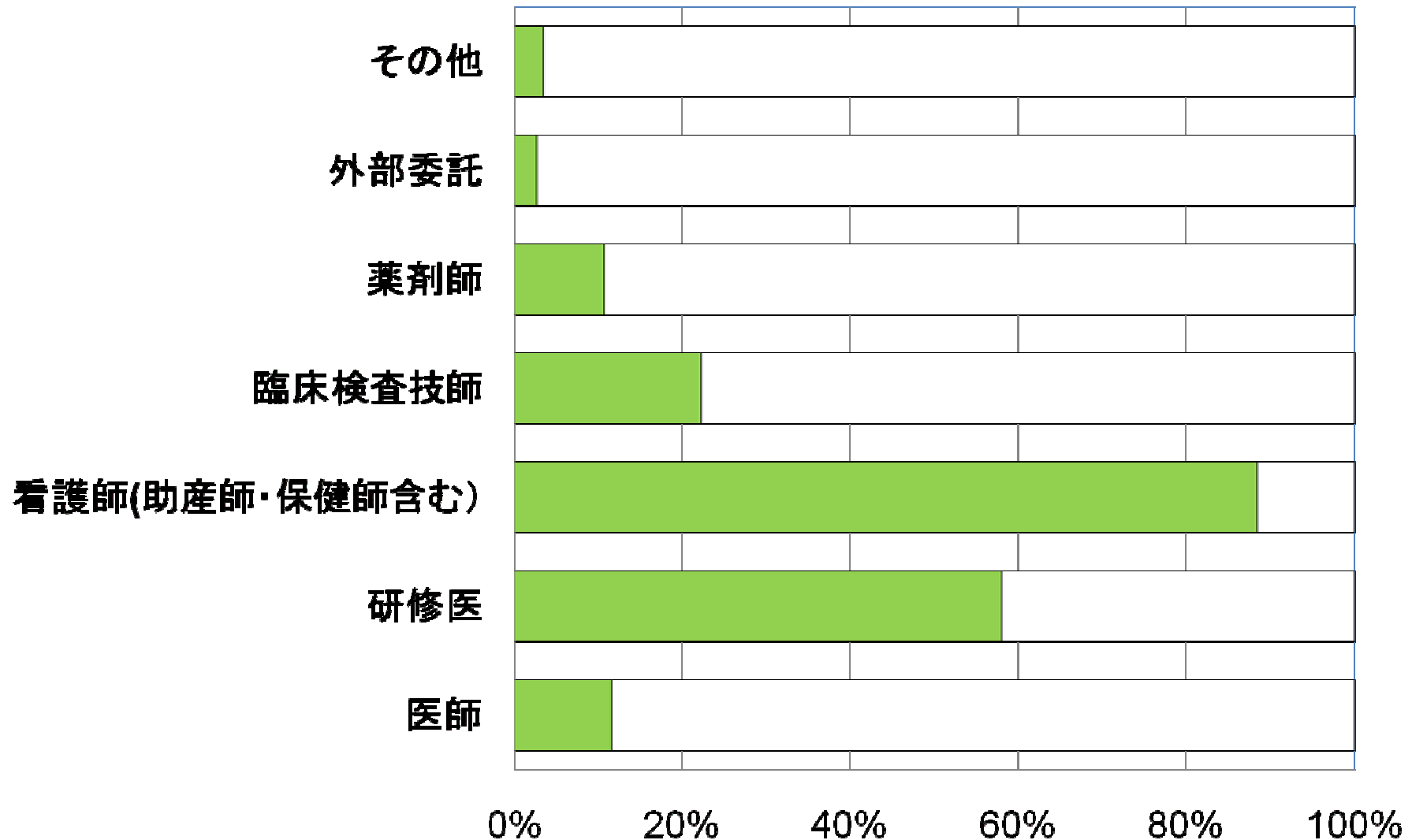
# 11. 針刺し損傷予防教育・トレーニングの実施状況

## 新規採用者教育実施割合(職種別)

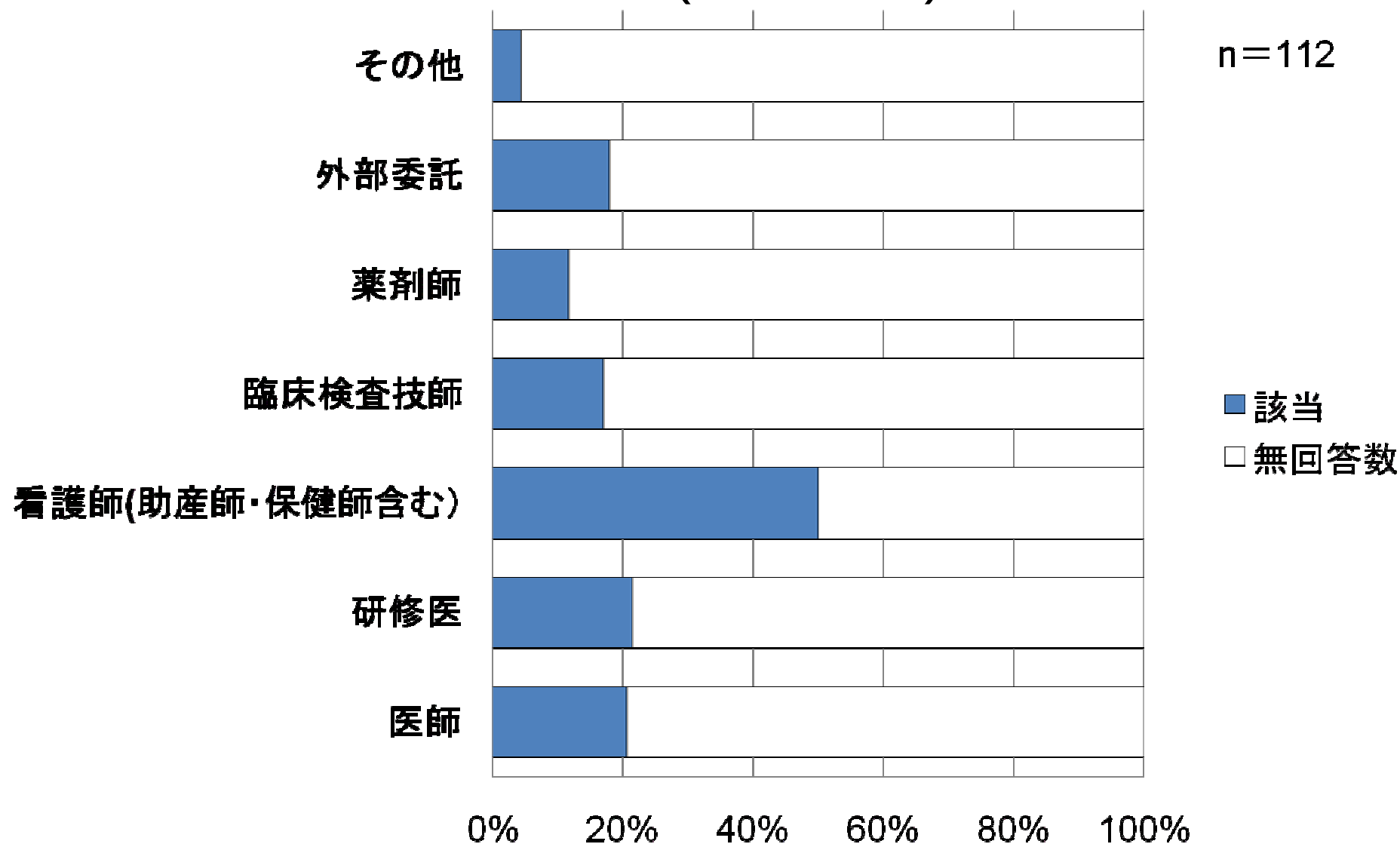


## 12. 新規採用者**実技**実施割合(職種別)

n=112



# 13. 新規採用者以外の教育実施割合 (職種別)



# 概 説

- 1 . 針刺し損傷を取り扱っている職種・部門は、主な職種は看護師であり、主な部門は感染制御関連が多く、連携部門として安全衛生、医療安全関連が多かった。
- 2 . 針刺しの報告システムとして、エピネット日本版Aが73.2%、エピシスが65.1%の施設で導入されていた。また、2003年度の調査時に比べ、エピシスの利用施設数の割合が増えている傾向にあった。



3 . 2004年度～2008年度の100稼働病床当たりの平均針刺し件数は6.3件であった。

注) しかし、箱ひげ図に示したように、どの年度も年間針刺し報告数に最低0～最高17.8とかなりばらつきがみられる。また、認識の高い施設では針刺し報告数が多く挙がる傾向にあるため、報告数が多いことが針刺し対応が不十分であるとの評価になるとはいいきれない。

その比較のためには、従来入院時のHCV抗体検査が広く行われていたため、報告率の指標として用いられているHCV陽性患者への針刺し割合などで比較するなど、一定の条件をそろえる必要がある。今後さらに詳細な分析を加え、追加報告する予定である。

4. 看護体制7:1導入、未導入による100稼働病床当たりの平均針刺し件数は7.5件および5件であった。

注) しかし、2003年度に行った調査では、大学病院の方が大学病院以外より100稼働病床当たりの針刺し報告数やHCV陽性患者への針刺し割合が多く有意差がみられ、血液曝露リスクが高いと考えられた。

今回の調査では、このようなリスクの高い大学病院が7:1の導入率が高いことと重なるためにこのように見えているとも考えられる。

5 ~ 7 .

- ・新規採用者において代表的な4つの職種のHBs抗体検査・ワクチン接種の実施割合はどれもほぼ90%以上なされていた。
- ・また、これらのワクチン接種を入職前後でルーチンとして行っている施設は約93%であったが、そのうち就職前にどちらも求めている施設は6%であった。
- ・追加接種対応で、1シリーズを病院負担で実施していることをはっきりと示しているのは34%ほどであった。

8 ~ 10 .

- **安全器材導入率**に関しては、各々の器材毎に、報告された施設数を分母に導入の割合をみた。どの器材も2003年度の調査より導入率が増加しており、特にランセットや血液ガス用などの器材で大きくのびていた。
- しかし、真空採血管については、2003年度には針先の保護ができない製品も安全器材と考えられて調査に記入されていたため、2008年度との差がなく、むしろ減少しているようにみえたという経緯であった。

- また、(注射器を用いた)注射針に限っては、頭打ちであり、薬剤充填注射器にも安全器材はないため、インシュリン注射は作業的防護策に頼らざるを得ない状況である。

11 ~ 13 .

- 針刺し予防教育実施状況は、新規採用者に関して、看護師は100%近く(実技;約90%)研修医が80%(約60%)、医師は約40%(実技;約10%)、臨床検査技師が50%(実技;約20%)、薬剤師40%(実技;約10%)であった。
- 看護師も含め新規以外の職員への針刺し予防教育実施状況は、50%以下である。

# 職業感染制御研究会への要望事項

- ベンチマークとして集計・分析データを定期的に公開、フィードバックしてもらいたい。
- Episys (エピシス) のバージョンアップが必要。
- 安全器材の導入がすすむよう、国など各方面へ働きかけしてほしい。
- 新しい情報や具体的な感染予防方法を、タイムリーにHP等にアップしてほしい。

例) インシュリン注射器